

ネットメロン病害虫防除暦  
防除体系（登録薬剤）

JA庄内たがわ 2024年度版  
2023年12月06日時点の農業登録情報をもとに作成

防除時期	主な対象病害虫	登録農薬名	希釈倍数・使用量	水100%当たり薬 剤量	使用時期	使用回数	RAC コード	備 考
定植前	コカネムシ類幼虫 ネグサレヤンチュウ・ネコバンチュウ ネコセンチュウ	DC油剤(劇)	20%/10a (1穴当たり2ml)		作付の10~15日前まで	1回	I:8A	全面処理又は作条処理
		ネマトリンエース粒剤	20kg/10a		定植前	1回	I:1B	全面土壌混和
育苗期	斑点細菌病	キノンドー水和剤40	600倍	166.6g	収穫10日前まで	5回以内	F:M01	希釈倍数800倍で、果実汚斑細菌病、炭疽病、べと病に適用あり
	斑点細菌病・疫病・炭疽病・つる枯病・べと病	ジマンダイセン水和剤※1	400倍	250g	収穫7日前まで	5回以内	F:M03	※生育期にも記載があるため、使用回数超過に留意(※1マンゼブを含む)
定植期	アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類	ベリマークSC	薬量 400株当り25ml	希釈水量 400株当り10~20ℓ	育苗期後半~定植当日	灌注1回	I:28	
	アブラムシ類、アザミウマ類、(コナジラミ類)	アドマイヤー1粒剤	2g/株		定植時	1回	I:4A	植穴又は株元土壌混和(コナジラミ類は植穴土壌混和のみ適用あり)
	ハモグリバエ類 ※1 ※1いずれかを処理	アクタラ粒剤5	2g/株		定植時	1回	I:4A	植穴処理(1g/株でアブラムシ類、ミナミキイロアザミウマにも適用あり)
生育期 (殺菌剤)	つる枯病・べと病・斑点細菌病・炭疽病・疫病	ジマンダイセン水和剤※1	400倍	250g	収穫7日前まで	5回以内	F:M03	※育苗期にも記載があるため、使用回数超過に留意(※1マンゼブを含む)
	つる枯病・菌核病	ロブラール水和剤	1,000倍	100g	収穫前日まで	4回以内	F:2	
	つる枯病・うどんこ病	ベルコート水和剤	1,000倍	100g	収穫前日まで	5回以内	F:M07	
	つる枯病・陥没病	トップジンM水和剤	1,500倍	66.6g	収穫前日まで	3回以内	F:1	※前日までの登録ですが、収穫間際の使用は避けてください
	つる枯病・べと病	プロポーズ顆粒水和剤※2,3	1,000倍	100g	収穫3日前まで	5回以内	F:40、E:M05	※2,3 TPN、ベンチアバリカルブイソプロピルを含む剤の総使用回数に留意(5回以内)
	つる枯病・うどんこ病・べと病	フォリオゴールド※2	800倍	125g	収穫3日前まで	3回以内	F:4、E:M05	※2 TPNを含む剤の総使用回数に留意(5回以内)
	斑点細菌病、軟腐病、黒腐病、褐斑細菌病	コサイド3000	2,000倍	50g	-	-	F:M01	野菜類での登録
	斑点細菌病・うどんこ病・果実汚斑細菌病	カスミンボルドー	1,000倍	100g	収穫3日前まで	5回以内	F:24、E:M01	ネット完成後
	つる枯病・うどんこ病・べと病	ストロビーフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	F:11	ネット完成後
	べと病	カンパネラ水和剤※1,3	1,000倍	100g	収穫7日前まで	5回以内	F:40、E:M03	※1,3 マンゼブ、ベンチアバリカルブイソプロピルを含む剤の総使用回数に留意(5回以内)
	べと病	ランマンフロアブル	1,000倍	100ml	収穫前日まで	4回以内	F:21	
	うどんこ病・つる枯病	アフエットフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	F:7	
うどんこ病・陥没病・つる枯病	トリフミン水和剤	3,000倍	33.3g	収穫前日まで	5回以内	F:3		
生育期 (殺虫剤)	トマトハモグリバエ・ミナミキイロアザミウマ、タハココナジラミ類	カスケード乳剤	2,000倍	50ml	収穫7日前まで	3回以内	I:15	
	アザミウマ類、ウリノメイガ、コナジラミ類、ハダニ類、ハモグリバエ類	グレースシア乳剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	I:30	
	アザミウマ類・アブラムシ類・コナジラミ類・ハダニ類	モベントフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:23	
	アブラムシ類・ウリハムシ・コナジラミ類 ハモグリバエ類・ミナミキイロアザミウマ	ダントツ水溶性	2,000倍	50g	収穫前日まで	3回以内	I:4A	ネオニコチノイド(ミツバチへの影響を考慮し、着果後に使用)
	アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶性(劇)	8,000倍	12.5g	収穫3日前まで	3回以内	I:4A	ネオニコチノイド(ミツバチへの影響を考慮し、着果後に使用)
	アブラムシ類	チェス顆粒水和剤	5,000倍	20g	収穫3日前まで	4回以内	I:9B	
	アブラムシ類・ハダニ類	アーデント水和剤	1,000倍	100g	収穫前日まで	5回以内	I:3A	ピレスロイド系※(希釈倍数750倍 ミナミキイロアザミウマ、ミナキイロアザミウマ適用あり)
	アブラムシ類、コナジラミ類	トレボン乳剤	1,000倍	100ml	収穫3日前まで	4回以内	I:3A	ピレスロイド系※
	アブラムシ類・コナジラミ類	ウララDF	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	I:29	
	アブラムシ類、※コナジラミ類	トランスフォームフロアブル	※2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:4C	※希釈倍率1000~2000倍でコナジラミ類適用あり
	ハダニ類	ダニトロンフロアブル	1,000倍	100ml	収穫前日まで	1回	I:21A	
		カネマイトフロアブル	1,000倍	100ml	収穫前日まで	1回	I:20B	
コロマイト乳剤		1,000倍	100ml	収穫前日まで	2回以内	I:6	展着剤使用しない(コナジラミ類、ハモグリバエ類にも適用あり)	
パロックフロアブル		2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	I:10B		

※使用時期の「収穫の前日まで」とは、薬剤散布を終了した時刻より

24時間を経過するまで、収穫出来ないことを示します。

※高温時の散布は薬害を引き起こすので注意する。

※交配3日前から交配2週間後までの幼果の時期には、薬剤散布をしない。

※ハダニ類は薬剤抵抗性が発現しやすいので同一薬剤の連用を避ける。

※【合成ピレスロイド剤使用上の留意点】

合成ピレスロイド剤(合ピレ)は、使用回数が多いと、抵抗性害虫が出現する可能性があるため、使用回数には注意してください。(使用は発生が多い場合にするなど、控えめに。)

☆適正管理について！☆

1. 病害虫の発生状況・予察に留意しながら予防・発生初期防除を心がける。
2. 適切な栽植密度とし、通風・作業性をよくしてください。
3. 圃地の適切な排水管理に努めてください。
4. 病害虫の温床となるものについては随時・適切に処理してください。
5. ドリフト軽減ノズルや防薬ネット等を出来る限り使用する。
6. みつばちへの配慮を行う。

防除器具の農業残留に留意！！

- ・防除器具は、前回散布後に充分洗浄したか確認し、散布当日も薬剤調整前にもう一度通水し洗浄しましょう。
- ・防除器具は使用後、通水で3回以上洗浄しましょう。
- ・洗浄水は川や下水等に流さないようにしましょう。

- ※1 マンゼブを含む薬剤の総使用回数に留意(5回以内)
- ※2 TPNを含む薬剤の総使用回数に留意(5回以内)
- ※3 ベンチアバリカルブイソプロピルを含む薬剤の総使用回数に留意(5回以内)